

事業再評価シート

事業名	道整備交付金事業		
箇所名	長谷・児原線	市町村名	西都市、西米良村

(上段は前回、下段は今回)

実施方法	補助 交付金 県単			
事業期間	採択年度	再評価年度	完了予定年度	
	H3	H22 H27	H31 H31	
事業進捗	全体事業費 (百万円)	既投資額 (百万円)	進捗率(%)	
			事業費	用地
	3,646	3,385	92.8	
	5,140	4,014	78.1	
再評価の概要	対象選定理由		事業効果(B/C)	対応方針原案
	再評価後5年経過		1.59	継続
	再評価後5年経過		1.42	継続

全体計画																								
<p>全体計画延長：22,600m</p> <p>起 点：西都市大字三納</p> <p>終 点：児湯郡西米良村大字越野尾</p> <p>利用区域内の森林の現況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>利用区域面積</th> <th>うち民有 人工林面積</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2,983ha</td> <td>577ha</td> </tr> </tbody> </table> <p>森林整備計画(10ヶ年計画)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">H22～H31</th> </tr> <tr> <th>計画</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主伐</td> <td>34ha</td> <td>42ha</td> </tr> <tr> <td>間伐</td> <td>10ha</td> <td>341ha</td> </tr> <tr> <td>造林</td> <td>6ha</td> <td>58ha</td> </tr> <tr> <td>保育</td> <td>46ha</td> <td>63ha</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>96ha</td> <td>504ha</td> </tr> </tbody> </table>	利用区域面積	うち民有 人工林面積	2,983ha	577ha	区分	H22～H31		計画	実績	主伐	34ha	42ha	間伐	10ha	341ha	造林	6ha	58ha	保育	46ha	63ha	計	96ha	504ha
利用区域面積	うち民有 人工林面積																							
2,983ha	577ha																							
区分	H22～H31																							
	計画	実績																						
主伐	34ha	42ha																						
間伐	10ha	341ha																						
造林	6ha	58ha																						
保育	46ha	63ha																						
計	96ha	504ha																						

事業概要

<林道開設>

全体延長	22,600 m
総事業費	5,140 百万円
事業期間	平成3年度～平成31年度

<林道区分> 森林基幹道

自動車道区分	1 級
車道幅員	4.0 m
全幅員	5.0 m

事業目的

目的、必要性

西都市大字三納と児湯郡西米良村大字越野尾とを結ぶ基幹道を開設することにより、森林の多面的機能を持続的に発揮していくための基盤強化
林業の収益性向上（生産性向上による低コスト化）
災害時における国道の迂回路的役割
森林総合利用施設へのアクセス改善
としての機能を果たす。

計画での位置付け

民有林林道網整備計画・地域森林計画による。

事業を継続する必要性

林業生産の基盤、地域住民の生活道、森林総合利用施設へのアクセス道、国道219号線のバイパスとして重要な役割を果たす路線であり、地元で設立された期成同盟会から毎年、早期完成の要望があるなど重要な路線であることから、事業の継続が必要である。

事業の進捗状況

現在の事業進捗状況

平成26年度末現在
事業費進捗率： 78.1% (4,014百万円/5,140百万円)
延長進捗率： 87.5% (19,786m/22,600m)

今後の事業進捗の見込み

完成区間は既に供用を開始しており（西都市側は完成）、残りの区間については引き続き、整備を図り、平成31年度までの全線開通を目指している。

事業が長期化している理由

当林道は地形が急峻なうえ崩壊しやすい地質であることから、施工中、大雨により幾度も崩壊し、その復旧に日時を要したことなどから事業進捗が遅れている。

社会情勢等の変化

利用可能な国内の森林資源が充実しつつあることから、安定供給可能な資源として国産材への期待が高まっている。

スギ素材生産量（全国1位）	平成26年	1,533 千m3
製材品出荷量	平成25年	749 千m3
	うち県外出荷	503 千m3(67%)

利用可能な林分が増えており、今後は、主伐や利用間伐の増加が見込まれる。

県全体（平成26年）

- ・保育管理が必要な7歳級以下 28%
- ・収穫可能な8歳級以上 72%

本路線の状況

民有人工林 面積	うち収穫可能な面積 (8~10歳級以上)	割合
577ha	512ha	89%

木材価格が長期に低迷しており、生産コストの縮減が重要となっている。

スギ素材価格（中丸太）

事業採択時（H3）	20,200 円/m3
現在（H26）	12,900 円/m3

地球温暖化防止のためのCO2森林吸収源対策として、間伐等の森林整備・保全を一層加速していくことが重要となっている。

間伐計画	国(H25~32年度)	毎年52万ha	計416万ha
	県(H25~32年度)	毎年1万ha	計8万ha

木材需要増加への対応が求められている。

大型製材工場や木質バイオマス発電施設の稼働に伴い、木材需要が増加傾向にあることから、これらに対応していくことが求められている。

現在も地域住民からの早期開通が望まれている。

当路線は森林管理及び木材生産の基盤、非常時におけるバイパス的役割等多様な用途が期待されていることから、早急な開通が望まれている。

事業効果の分析			
費用対効果 (B / C)			
総便益 (B)		総費用 (C)	
項目	金額(千円)	項目	金額(千円)
木材生産等便益	370,968	事業費	8,166,926
森林整備経費縮減等便益	11,172,380	維持管理費	388,845
一般交通便益	298,721	合計	8,555,771
森林の総合利用便益	264,144		
災害等軽減便益	25,131	総便益 (B)	12,131,344
合計	12,131,344	総費用 (C)	8,555,771

= 1.42

事業を継続することの事業効果分析
 林業生産性向上による低コスト化
 観光施設へのアクセス強化
 災害時における迂回路等交通ネットワークの強化

開設効果指数

生産指数 + 育林指数 = 3.98 + 0.01 = 3.99 1.2

・生産指数 = $\frac{\text{蓄積計}}{\text{民有林針葉樹面積} \times 100 + \text{民有林広葉樹面積} \times 30}$
 $= \frac{273,055}{577 \times 100 + 365 \times 30} = 3.98$

・育林指数 = $\frac{\text{利用区域内の3歳級以下の面積}}{\text{民有林針葉樹面積} + \text{民有林広葉樹面積}}$
 $= \frac{9}{577 + 365} = 0.01$

コスト縮減

切土量を抑制するため、可能な限りL型擁壁等を採用したり、大盛土施設を設置するなど、切土と盛土のバランスをとるとともに残土運搬経費の削減を図った。

また、環境に配慮し、濁水対策としては、盛土法面への丸太筋工や種子吹付工を施工するなど、早期緑化による法面の流出防止等を図っている。

代替案の可能性

現行の計画線形は、山腹斜面、沢筋等の地形・地質・林況等を十分に検討し、切土と盛土のバランスをとり、切土量を極力少なくするように努め、経済的な線形となっている。

このため、代替案は示していない。

対応方針

継続

位置図（管内図）

